

身の回りにおけるテクノロジーで 広がる支援の可能性

多くの人の身の回りにおけるテクノロジー（アルテック）を用いることで、支援を必要としている人の生活が大きく変わりうる可能性があります。今後、私たち介護福祉従事者は、人々の生活を豊かにするためにテクノロジーをどのように活用していけばよいのでしょうか。生活支援の歴史を概観し、あるテックを活用した生活支援の可能性について考えます。

2024.2.3 土 13:00-16:00

 (受付12:30~)

場所：早稲田大学 早稲田キャンパス3号館405教室
(※オンライン参加も可能です。)

対象：介護福祉実務者、日本介護福祉学会員 等

定員：100名

参加費：1,000円（会場・オンライン問わず）

登壇者のご紹介

ーあるテックで変わる生活の質ー

三宅 琢 Taku Miyake

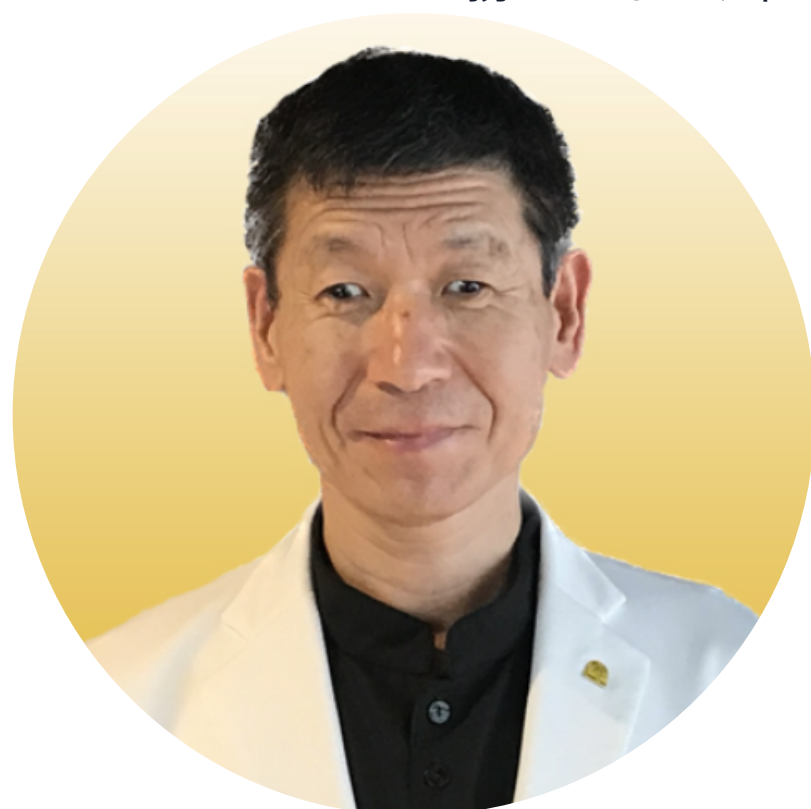
公益社団法人NEXT VISION 副理事長、医学博士
眼科専門医、労働衛生コンサルタント、メンタル法務主任者
働く人々のメンタルヘルスケアから人材育成まで職場で起こる課題の解決や
ヘルスリテラシー向上の教育を行う産業医。
ICTを活用した障がい者への情報支援や病院デザインのコンセプトディレクター
を務めるなど、医療の領域を超えた情報障がい者への情報処方を行う眼科医。



ーあるテックで心のひとみが開くときー

和田 浩一 Koichi Wada

視覚障害リハビリテーション協会 会長
デジタル庁非常勤職員（アクセシビリティアナリスト）
公益社団法人NEXT VISION 常務理事
35年間盲学校理療科教員勤務



お申し込み

右記のQRコードより
お申し込みください。



コーディネーター

森山千賀子 Chikako Moriyama

白梅学園大学 子ども学部家族・地域支援学科/教授

【お問合せ】

日本介護福祉学会 関東地区担当

E-Mail : kaigokanto2021@gmail.com